

## 【介護事業における防災・減災対策講座】

### “災害に備えた体制整備と災害時の

### 対応をいかにすべきか！？”

～ 最悪の事態を想定し、最適解・最善策を ～

日 時：令和元年12月19日（木） 13：30～16：30

場 所：名古屋商工会議所 3階 第5会議室

主 催：公益財団法人 愛知県シルバーサービス振興会

目 的：今後、起こりうる災害時に対し、主として介護関係に携わる管理者  
や現場スタッフに求められるものは何かという視点から、事例を中心  
とした講義や演習によって理解を深める

参加者：介護福祉関係者等 37名（6グループ・1グループ6～7名）

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

防災アドバイザー、研修委員

**羽田 道信 氏**

（藤田医科大学 医療科学部 特任教授）

ファシリテーター：寺島、手塚、保坂、加藤（和）、原田、宮澤、阿部

（7名）

冒頭、寺島理事長より「今回の防災・減災講座から災害について理解を深め、それを日々の業務に役立てて頂きたい」と介護福祉に携わる参加者へ思いを伝え挨拶といたしました。

羽田講師からは、主催者からの依頼を受けて今回が4回目となること、そして、本日の進め方を1部は座学とし、休憩を挿み、2部を内閣府が推奨するクロスロードゲームにするカリキュラムを説明しました。

#### 【1部】

介護事業所における防災・非常災害対策講座とし、災害時の対応策や普段の備え、介護施設・介護職特有の対策と銘打って、入所者や利用者の安全をどう確保するかについて、参加者へ判りやすく説明をしていきました。



説明をする羽田講師

災害が発生した時に、まずは、「自助」が大切であるが、しかし、介護職として自分の身の安全を守るだけでなく、入所者等の安全確保も求められることは言うまでも無い。近年の自然災害を教訓とし、「多様化」、「頻発化」、「激甚化」の傾向にあることを理解し、直面した時にどのように対処していったら良いか基本的な「自助」「共助」「公助」の考え方を認識して頂きました。

なお、防災・減災の要として、「自助」「共助」を大切にしていくことが重要であり、「自助」は最大の「共助」になることを説きました。

また、介護施設や介護職特有の課題が有り、入所者や利用者の多くは、自力での避難は困難を極めることから

要支援者に合わせた避難・移送のための搬送道具や対応人数を考慮する必要が出て来る。実際に東日本大震災の時に指定避難所が津波によって流され、万が一を想定し、第二、第三の避難場所と順路を予め決めておく必要があることを強調した。その他に、入所型の施設では、シフト制の勤務形態で運営されていることが多く、発災時は少ない人数しかいないという最悪の状況を想定しながら対処する体制を構築しておくことが大切であることも併せて説きました。

実際に命を守る避難において、要支援者に合わせた水平及び垂直避難による移動方法と介護リフトやおんぶ袋の機材を使つての避難方法、併せて、台風10号により岩手県岩泉市の高齢者グループホームが浸水し、入所者の方が9名犠牲になったことと併せ、災害時に求められる安全確保行動に伴う訓練等の重要性を説きました。また、気象庁が発表する警戒レベルの情報を把握し、取るべき行動を取り決めておく必要があることも説きました。

更には、介護福祉に携わる参加者へ「プロアクティブの原則」と「実効性のある非常対策計画」並びに「災害時リスク・アセスメントシート（課題・対応策整理票）」を縷々説明して、第1部を終了いたしました。

## 【第2部】

クロスロードゲームと言っても、ゲーム感覚で行うものでは無いこと、そして、クロスロードの進め方をしっかり認識して頂いた上で、進めて行きました。

初対面の方同士がテーブルに付いていますから、まず、じゃんけんで負けた方から自己紹介をスタートして頂き、時計回りの方向にスピーチする法則を定着させました。

1 グループを7人から6人の構成にして、一人にYesとNoのカードを1枚



講座を真剣に聞く介護従事者の皆さん

ずつ持たせ設問をスクリーンに映し出し、その設問を講師が読み上げ、理解した上で、瞬時に自分が考えること、自分が取る行動をYesとNoのカード、どちらか一方を自分の目の前に差し出します。講師がオープンと号令をかけた時、目の前の自分のカードを開き、なぜこのカードを自分が選んだかを、時計回りに順番にグループ内で発表します。発表していない人は、じっと聞き役を努めます。



クロスロードゲーム模様

グループ内で個々に発表している間に、それぞれのグループを担当するファシリテーターが、YesとNoの数を講師に告げ、その数をPCへ入力・集計し、スクリーン上に表示しました。6グループの中で最も少ない数に注目しながら、なるべく各グループともに均等になるような形で「なぜ自分は、このカードを選んだか」を発表して頂きました。

当初、予定の10の設問を終了時間の午後4時30分前に終了することができました。

各設問の状況設定が具現化していない部分がある為に、迷っても、設問の内容を瞬時に理解し、どちらかのカードを出さなければならないことへのストレスを若干なりとも感じながら、介護施設に携わる参加者にとりまして、脳トレに匹敵するくらいの判断力と実効力を磨く講座にして頂けたと自負しています。

文責・写真：阿部 健二